

京都女子大学

# 食物學會誌

第 16 号

JOURNAL OF FOOD SCIENCE

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

No. 16

京都女子大学食物学会

FOOD SCIENCE SEMINAR

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

J U L Y 1964

# 食 物 学 会 誌

第 1 6 号

## 目 次

### 研 究 報 文

- 大豆新発酵食品の製造について ..... 足立晃太郎  
靈小満佐子 … 1  
亀井光子  
黒田美千代
- リンゴの褐変とビタミンCとの関係 ..... 杉田倭子 … 9
- 魚肉の新鮮度とミオグロビンの関係について ..... 工藤 豊  
田中紀美 … 16  
仲田陽子
- 魚類の腐敗検定法に関する研究〔2〕  
——酵素活性の変化による検定について—— ..... 太田 馨  
坂田由紀子 … 24  
和田和子  
原田佳子
- 食物学会誌原稿の書き方 ..... 28

## 食物学会誌原稿の書き方

1. 論文の表題の下に著者名を書き、ついで英文表題とローマ字著者名を記載する。
2. 原稿第1枚の脚註に著者の勤務先あるいは所属機関の公称名および所在地とその英訳名を書く。
3. 文章は平かな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による。外国語音訳にはかたかなを用いる。
4. 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出しおよび小見出しを明確にする。なお小見出し以下の区分はアルファベットによる。  
〔例〕 I. 実験  
    I. I 実験方法  
        I. I. I 試料の調製  
          A 試料
5. 句読点およびカッコには1こまを与える。ハイフンは1まこの中に明瞭に書く。新しい行の初めは1こまあける。
6. 一般に通用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
7. 原則として本文中に元素名、かんたんな化合物名称の代りにその化学記号、化学式を用いない。
8. 数字はすべてアラビア数字を用い、数量は原則としてG.G.S.単位を用いる。数量および術語の略字などは次の例による。  
    m (メートル), cm (センチメートル), m<sup>2</sup> (平方メートル), m<sup>3</sup> (立方メートル), ml (ミリリットル), l (リットル), mg (ミリグラム), g (グラム), kg (キログラム), °C (摂氏度), % (パーセント), pH (水素イオン濃度), b.p. (沸騰点), f.p. (凝固点), m.p. (融点), cal (カロリー), Cal (大カロリー), hr (時間), min (分), sec (秒), MW (分子量), V (ボルト), kV (キロボルト), A (アンペア), mA (ミリアンペア), W (ワット), Atm (気圧), N (規定), M (モル濃度),
9. 表、図および写真の番号は表1, 表2..., 図1, 図2..., 写真1, 写真2...のように表わし、表の説明は表の上に、図および写真の説明は図および写真の下に書く。
10. 図は白紙または淡青線方眼紙に墨書きし図の中の文字は必ず鉛筆で書く。
11. 図および写真は本文中に挿入個所を明示して、別に添付する。
12. 本文および文献中の雑誌名には——, 雑誌巻数には~~~~の下線をつける。——はイタリック体, ~~~~はゴシック体となる。
13. 本文中の引用文献番号は片カッコをつけて肩に小さく書く。文献は本文の最後に通し番号順に列記する。
14. 引用文献は著者名、雑誌名(書名)、巻数、頁数、年号の順に書き、12. の注意の如く、それぞれ下線をつける。  
〔例〕 A. Haas, B. Hill: Biochem. J., 29, 986 (1932)
15. 引用文献の略し方は原則として日本化学総覧および Chemical Abstracts の規定による。ただし食物学会誌を引用するときは“本誌”と略す。
16. 脚註は \*1\*2 の通し番号で示し各ページごとに記載する。

---

京都女子大学 食物学会誌 第16号 (非売品)

昭和39年7月25日 印刷

昭和39年7月29日 発行

編集委員代表

編集者 布 浦 弘

発行所 京都女子大学食物学会

京都市左京区百万辺東入

印刷所 栄光堂印刷所

電(78) 6171・6172番

---